

松 風

福島県公立学校退職校長会

郷土の祭り紹介…………… 1
 論壇、随想…………… 2
 社会貢献活動の先例に学ぶ…………… 3
 趣味と生きがい…………… 4
 「寿詞・賀寿・賀詞」該当会員、他…………… 5
 特色あるクラブ活動、他…………… 6

〒960-8107 福島市浜田町4-16 富士ビル2階
 TEL (024) 534-5411
 FAX (024) 531-1195



郷土の祭り紹介

おんば様のお日市

北会津支部 橋本 千賀子

会津若松市の旧市街には、四十五の産土神、神社、仏閣等があり、町内会単位でその祭礼の日に合わせて、「お日市」(その日限りの市、縁日)が開催されます。これは、今から約四百年余り前の蒲生氏郷時代から始まったとされ、今に受け継がれている夏の風物詩で、伝統行事の一つです。

お日市は、七月から九月にかけて、ほぼ毎日のように各町内で行われ、その最初の日は、七月一日の日新町(旧北小路)のおんば様のお日市です。曹洞宗萬松山長福寺の観音堂に祀られている「御姥尊」は、昔から地域の人々におんば様と呼ばれて親しまれ、安産に靈験のある姥神様とされています。

お日市の日になると、近郊近在から参拝者が安産祈願に訪れます。一昔前までは、若い女性や妊婦の方、子ども連れの家族等の姿が多く見られたそうです。今、出産は医療機関ですが、昭和初期までは産婆さんや経験者である老婆のお世話になりました。出産は、女性にとって命がけでした。観音堂の御姥尊のお姿は、普段は白幕が下げられ見ることはできませんが、お日市の日だけは特別に白幕が上げられ、そのお姿を見ることが出来ます。御姥尊は老婆像で、着物を着て右膝を立て、口を開けた形相で少し恐ろしさを感じますが、座産という出産の姿を表しています。安産は、当時の人々の切実なる願いであったのです。

お日市の日、旧北小路通りに多くの出店があり、にぎわいます。家族ぐるみで楽しそうに店々を回る姿が見られます。

近年、会津ではお日市が見直され、盛んにしようという機運が高まっています。「会津若松市お日市まつぶ」も整備されていますので、たまには、ゆっくりとお日市めぐりをし、会津のよき伝統文化を直に感じてみてはいかがでしょうか。

この論壇は、拙稿「松風」一八二号論壇の続編である。いわゆる過疎地における町づくりを進め、喫緊の課題は何かと問うと、住民の高齢化と限界集落のことが話題となる。

三年前の定例会では、この二つの課題は、マイナス面ばかりが話題となり、溜め息さえも聞こえてくる雰囲気があった。しかし、

熱い議論を重ね、様々な活動を進めていく中で、その見方が大きく変わりつつある。

まず、限界集落についてである。そもそも高齢者の割合が高いという理由だけで、限界ということは言えないはずだ。その地域に豊かな自然があり、すばらしい歴史と文化があることを忘れてはならない。さらには、自然のおもむきが感じられるた

論壇

喫緊の課題？

副会長 星 憲 隆



ずまいがある。その上、地域には生業がある。毎週日曜日、「ポツンと一軒家」という番組が放映されている。この番組を通して豊かな生き方こそが大切であり、決して、限界集落ではないことを伝えて

いると考えており、最近の定例会では、限界ではなく、「よさ」を見つけ合う姿が多くなってきたように思う。

次に、高齢化についてである。定例会では、健康寿命をのばす運動や、社会貢献活動を積み重ねてきた。こうした中で、老いることは、

様々な弱点が増えるが、その弱点をカバーし合えれば、高齢化も恐れる必要はないことに気づいてきた。例えば、足が弱くなれば、コミュニティバスや福祉タクシーの導入、移動販

売車の運行が考えられる。例えば目が弱くなれば、公報誌のポイント拡大や写真などの見える化が考えられる。

それ以上に、高齢者の蓄積された知恵と豊かな経験を生かす場が多くなれば、地域の活性化につながるはずだ。言うまでもなく、目の前の集落も、高齢者の

での地域資源という見方

に変わりつつある。こうして、地域の自慢や誇りを再発見し、地域課題を解決するための方策を考え、実践することを通して、地域住民の福祉の増進や産業の振興、生活文化の振興等に寄与するとともに、協働による地域づくりを、各種団体や個人と連携しながら推進していきたい。

随想

白鷺句会 半世紀を思う



いわき支部 高橋 彦士

一九六八年、伊藤伊佐次氏の提唱によって六名の同好の士で俳句クラブが結成された。この年、幾度かの句会が開かれ、ガリ版刷りの会報第一号から第四号が発行された。

翌年の会報五号からは謄写印刷になり、十二月にはクラブ名も「白鷺句会」と命名され、本格的な活動が始まった。以来、半世紀にわたって名実ともに充実した活動を続けてこられたのは、草創期の先輩たち、その意思を受け継いだ歴代の会長や仲間たちの俳句に対する並々ならぬ思いが、形として表現された結果だと思われる。私がこの会に参加したのはリタイヤした直後の平成四年で、当時の会員

は二十二・三人ほどだった。早速、先輩に交じって吟行句会で鍛えられることになった。俳句は古くから「連衆の文学」と言われているが、連衆一人ひとりには、みな良き読者であり、評者であり、協力者でもある。長所・短所を指摘してくれる連衆の切磋琢磨によって作句のレベルが高められてきたと思う。技術的な事ばかりでなく、俳句人として事物の観方・考え方なども養われた。

通算五十六年(会報第六百五十三号)、多くの仲間が俳句の楽しさを教えられ、作句力を育てられた白鷺句会を、諸般の事情により今年度限りで幕を閉じることになった。継続できなかつた事を悔やむとともに、まさに断腸の思いである。八人の会員は、常に向上心をもって俳句に對してきたという自負がある。これからもその気持ちをもち続けて欲しい。それがやがて自分史になる。



社会貢献活動の先例に学ぶ

（株）猪苗代観光船社長

渡部 英一氏に聞く

令和四年十二月十一日、
（株）猪苗代観光船社長（レイクサイドホテルみなどや四代目社長）渡部英一氏に新しく猪苗代観光船を立ち上げた経緯やその思いなどについて話を伺った。

廃船の危機を乗り越えて

日本の高度経済成長期に登場した猪苗代湖の観光船（はくちょう丸・かめ丸）は、県内外の多くの人々に親しまれ、愛されてきた。ところが、二〇二〇年六月、それまで運航していた磐梯観光船が廃業となり、一年後の六月には、はくちょう丸・かめ丸に廃船の危機が生まれた。しかし、全国からの支援を受け、渡部氏らは新しく猪苗代観光船を設立。二〇二一年十月二十九日に「はくちょう丸」、翌年七月二十六日に「かめ丸」の運行を開始した。

◆全国からの多くの支援

《渡部氏》一昨年（二年前）の六月に前の磐梯観光船が

倒産し廃業になって、破産管財人がだれかやる人はいないか、引き継いでくれる会社はいないか探していた。一年過ぎて六月がメリットで、廃船の危機がBS東京の加藤浩次の番組「タタムなんてもったいない」などのテレビや新聞で何度も取り上げられ、そうしたところ、大阪の業者が船を買いつけたという話が来まして。それでは困ると思いましたが、福島出身で東京の出版社の社長さんが新聞記事を見て、会津の人にお世話になった恩返しに一千万を出資するの



「はくちょう丸」を乗せて遊覧船の灯を消さずにすみました。

◆逆転の発想でチャレンジ

でやってくれないかという話があり、引き受けることになりました。けれども、会社をつくらないと船を買えないので。友人が五百万、私が百万を出資しました。

それでもお金が足りないのので、クラウドファンディングを立ち上げて、約二カ月で北は北海道、南は沖縄まで全国から約千人の方から、総額で一千七百万近く集まりました。それらの支援で会社も何とか立ち上がり、廃船を乗り越えてほしいという思いや資金の援助などがあって、遊覧船の灯を消さずにすみました。

《渡部氏》コロナのことでよそのことを考えている余裕はありませんでしたが、全国から大きな反響があつて出資する人もあり、何とかしなくてはならないということとで引き受けました。

震災後は、商売も逆転の発想、ピンチはチャンス、プラス思考で、デリバリーやテントサウナなど、現状維持では前に進まないと思い、いろんなことにチャレンジしました。

そういう考えで「はくちょう丸」は遊覧船、「かめ丸」は今までは違ったやり方で、湖上レストランとして運営。ちよつとした食事をしながら貸し切りで遊覧する。いろんなパーティー、サンセットクルーズ、ダイナーなどできるように改装しました。

◆問題を克服して

《渡部氏》船を動かすためには、船長と機関士（有資格者）甲板員、船員の最低四人が必要で、集めるのにひと苦労しました。

また国立公園なので、その中で事業するには特別許可、特別認可が必要で、きちつとした会社なのか、やっていけるのか、そういう審査が厳しかったですね。でも、全国的にも注目されていたので、行政の方も応援・協力してくれました。

船も一年間何もやっていなかった

ので、検査に結構な費用がかかりました。船を陸あげしてエンジンを全部ばらして整備するのに千五、六百万かかりました。

◆多くの人の思いを乗せて

《渡部氏》いろいろな支援

をいただいで、その人たちの期待を裏切るわけにはいかないですから。私たちの船というより、全国のみなさんの船なんです。この遊覧船の灯を消してはいけない、福島県のシンボルの存在を何とかしなくてはという思いですね。遊覧船、湖上レストラン、いろいろな催しがやれるような船にして、これからもみなさんの思いを乗せて、運航していきたいと思えます。



「かめ丸」湖上レストランとして

【取材を終えて】

渡部氏は、全国からの支援があつたからこそ、遊覧船が復活できたという。氏は全国からの熱い思いを受けとめて行動した。このような形も広い意味で一つの社会貢献になるだろう。

趣味と生きがい

待ち焦がれて



安達支部
小林 淑人

そよ風に薔薇の乙女達が
いつせいに花ひらく五月。
心が躍り目覚めは早い。庭
に出ると、色とりどりの薔
薇たちが「早く私を見つめ
て」と出迎え、ダマスクヤ
フルーティのうっとりする
甘い香りに包んでくれる。
「おはよう、フィネス。可
愛く咲いたね、シエエラ
ザード。」と早起きの妻が
薔薇に語りかけている。

震災後、表土除去で寂し
くなった庭に「パレード」
を一本植えてから十余年、
今では百五十株を超える薔
薇が狭い庭に所狭しと咲き
誇る。毎年この時期、ミニ
オープンガーデンへの訪問
者案内に慌ただしい。誰も
が「まあきれいな、いい匂
い。」と薔薇を愛でる。
十月、秋薔薇は色も香り
も濃く、霜が降りるまで咲

き続ける。写真に撮り、絵
に描き、花瓶に挿したり、
ドライフラワーにしたり
と、楽しみはつきない。

十二月、冬の作業が三月
まで続く。苦心するのは四
十五本のつる薔薇。枝を全
て支柱から取り外し、剪
定、誘引していく。寒さで
手がかじかみ鼻水が止まら
ない。しかし、美しい花園
を夢見て構想を練るこの時
間が私は好きだ。
待ち焦がれるは薔薇の季
節なり。



絵手紙と私



東白川支部
面川 孝子

退職の年、先輩の「絵手

紙は『ヘタでいい、ヘタが
いい』のよ。」の言葉に背
中を押され、その方にいた
だく温かいはがきに心ひか
れていた私は、描いてみた
いと思うようになりまし
た。それからは、その先輩
を師匠に絵手紙の基本を一
つ一つご指導いただきまし
た。

墨をすると青墨の香りと
硯の感触に心が安らぎま
す。そして、どう描こうか
と見つめていると、美しさ
や面白さが見えてきて描き
たいという想いが強くなり
ます。

垂直に立てた筆軸の上端
を軽く持ち、ゆっくり穂先
で線を引くのですが、なか
なか思うようにいきませ
ん。それでも一心に描きま
す。失敗作かなと思っ
ても、彩色し、言葉を書き、
朱印を押すと何とかがまと
まります。小さな紙の中に私
なりの世界ができあがり、
充実感を味わうことができ
ます。嬉しいことに、力を
尽くせば『ヘタでいい』が
成立するのです。そして投
函することで、交流が生ま
れます。

趣味は絵手紙ですと胸を
張って言えるように、これ
からも精進していきたく
思っています。



挑戦!!



耶麻支部
松原 実

現職時代、退職した先輩
方から、「第二の人生のた
めに、何か趣味を持つとい
いよ。」と言われていまし
た。

これといった趣味がない
まま退職した年、公民館の
体験講座で「パラグライ
ダー」に出会いました。空
を自由に飛べるといふ楽し
さを知り、すぐにスクール
に入校し、時間を見つけて
は通っています。

初めて単独飛行をして、
八百メートル上空から、東

に磐梯山、西に雪を頂いた
飯豊連峰、眼下に会津平を
見た時の感動は今も忘れる
ことができませぬ。

多くの友人から、「空を
飛ぶなんて、危ないことは
やめろよ。」と言われます
が、「俺は現職時代、子供
たちに、『何事にもあきら
めず、挑戦する気持ちを持
て』と言ってきた。今度は
自分自身が挑戦だ。」と答
えています。

四年前からは、冬の挑
戦としてスノーボードを始
め、昨年は、夫婦でバイク
の免許取得に挑戦しまし
た。免許取得では、年齢的
なこともあり、何度もあき
らめようと思いましたが、
教官の方々の励ましで何と
か取得できました。爆音を
体で感じて走るの最高で
す。

今、アウトドアスポーツ
という趣味を通して、多く
の仲間ができました。第二
の人生の財産です。

今年の挑戦はスキュー
バーダイビングです。体力
の続く限り、何事へも挑
戦する心を持ち続けていき
たいと思っています。

令和五年度 「寿詞・賀寿・賀詞」 該当会員名簿

一 「寿詞」(満百歳)

大正十二年四月二日
大正十三年四月一日生まれ

- 1 郡山 渡邊 良才様
2 安達 佐々木士郎様
3 両沼 船田 宗勝様
4 北会津 大竹 孝様
5 耶麻 山崎甚二郎様

二 「賀寿」(満九十五歳)

昭和三年四月二日
昭和四年四月一日生まれ

- 1 郡山 鈴木 辰男様
2 いわき 阿部 良全様
3 福島 中村 正直様
4 田村 市川 守孝様
5 福島 湯浅伊佐夫様
6 郡山 佐藤 壽之様
7 岩瀬 鈴木 廣茂様
8 耶麻 羽曾部 實様
9 伊達 小河 徹也様
10 岩瀬 増子 糸雄様
11 安達 武田 昭三様
12 福島 五十嵐大典様
13 郡山 吾妻 和郎様
14 西白河 八田部良夫様
15 双葉 瀬戸 年雄様
16 北会津 松本 肇様

三 「賀詞」(満八十八歳)

昭和十年四月二日
昭和十一年四月一日生まれ

- 17 安達 小島 喜一様
18 南会津 坂内 勝典様
19 北会津 渡部 光昭様
20 岩瀬 藤島 昭様
21 伊達 猪俣 好巳様
22 福島 佐藤 昌志様
23 郡山 渡邊 一朗様
24 福島 吉川 浩先様
25 郡山 渡邊 一夫様
26 いわき 蛭田 早苗様
27 福島 折笠 常弘様
28 相馬 山野辺 久様

- 1 西白河 福田 利家様
2 西白河 武藤 六郎様
3 いわき 根本 榮信様
4 耶麻 高畑 陸雄様
5 福島 大竹寅八郎様
6 北会津 野中 恒男様
7 郡山 相澤 珪二様
8 岩瀬 古簾 恂様
9 安達 渡邊 啓祐様
10 福島 目黒 穆雄様
11 いわき 渡部 祐亨様
12 伊達 土田 隆様
13 南会津 星 恒行様

- 14 相馬 吉田 健美様
15 郡山 山川 修様
16 安達 鈴木 正宏様
17 いわき 榎田幸太郎様
18 北会津 山ノ内不二彦様
19 郡山 加藤 恭二様
20 西白河 富岡 直様
21 双葉 志賀 資隆様
22 郡山 岩城 教夫様
23 福島 齊藤 眞様
24 耶麻 小荒井 實様
25 安達 三浦 邦雄様
26 北会津 鈴木 司様
27 いわき 西山 允雄様
28 郡山 安濃 徳雄様
29 郡山 大竹 範昌様
30 いわき 網代 光平様
31 郡山 山内 達男様
32 福島 菅野 信一様
33 北会津 山野辺喜勝様
34 郡山 五十嵐 勤様
35 北会津 小山 立亥様
36 北会津 福田 試作様
37 いわき 藤田 信正様
38 郡山 落合 正義様
39 福島 齋藤 正寛様
40 両沼 平野 久英様
41 相馬 渡部 武様
42 福島 壱岐 武熙様
43 郡山 鈴木 貞夫様
44 福島 小松 榮様
45 北会津 渡部 正人様
46 伊達 田野入清人様

- 47 安達 遠藤 徳様
48 いわき 大友 誠三様
49 郡山 中村日出彦様
50 西白河 佐川 文夫様
51 耶麻 岩下 保夫様
52 西白河 菊地 順雄様
53 耶麻 瓜生 敏男様
54 伊達 渡邊 昭様
55 耶麻 須田 昭次様
56 福島 齋藤 壽様
57 いわき 佐々木澄子様
58 相馬 長階 大様
59 岩瀬 高橋 專治様
60 いわき 根本 正様

(令和五年一月十日現在)

第四十八回東北地区協議会 岩手大会報告

令和二年度に実施予定であった標記大会は、コロナ禍の影響により、日程を一日に短縮、さらには会場を変更して令和四年十月十三日、盛岡グランドホテルで行われた。本県からは佐藤俊市郎会長をはじめ五名が参加した。

まず、理事会では、役員人事、次年度の宮城大会等について確認した。写真撮影のあとの昼食は一同に会し、各県代表者によるス

ピーチを聞きながら楽しく会食した。午後からは、開会行事の後、全連退の入子会長さんの講話の予定が、当日ご自宅で転倒され欠席。急ぎよ、岩手県木村会長さんが、「平民宰相 原敬」に関わる造詣の深い素晴らしい講話を行った。その後、宮城、山形、福島(福土事務局長)の三県から実情に応じた取組や課題への対応等について話題提供があった。加入会員の減少や社会情勢の変化に伴う「会運営」の難しさなどが課題として共有された。タイトな日程だったが適切な感染防止対策を講じ、ウィズコロナにふさわしい有意義な大会となった。



岩手大会の様子

特色あるクラブ活動

囲碁クラブ

岩瀬支部

コロナ禍の現在も、少数ながら活動を続けております。

去る十月十一〜十二日の二日間、第四十四回福島県元校長囲碁名人戦が郡山市で開催され、参加してまいりました。県北、県中、県南、いわき、会津の各支部から有段者とは級者がそれぞれ代表者十二名ずつ集まり、対戦しました。白熱した戦いが始まり、懐かしい顔ぶれで和んでいた空気が石の音と時計を押す音に変わりました。筆者である私は、有級者の部に出たのですが予選リーグで惜敗してしまいました。次年度も参加できるように頑張りたいと思います。

休憩時間の中で他支部の先生方と話をしてみますと、我が支部と同じように囲碁をする元校長先生が少

なくなっているということと、高齢化が更に進んでいるので活動が鈍くなっているということでした。

人生の価値は、どれだけ財産を得たかではなく、どれだけ多くの囲碁仲間ができたか、かもしれない、と思うこの頃です。

(囲碁クラブ 東条 正記)



潮風に引かれて

相馬支部

相馬支部の伝統ある釣りクラブは二十年前から活動しており、当時は現職と松川浦での釣り大会と懇親会

で交流を図り、盛り上がりがありました。

東日本大震災後は、しばらく活動を休止していましたが、少ない人数でも今は年五回程度「釣りの集い」を開いています。

再開後の三年は、日本海の新潟東港や柏崎港で宿泊をして釣りを行っていました。当時は久しぶりの潮風、しなる竿の感触、イナダ、アジ、キス、そして釣り仲間との夜の懇親に、震災のストレスを一時忘れたものです。

本年度は五月に相馬港でアイナメを、六月に奥松島でカレイを、七月仙台港でサビキ釣り、九月は石巻港でアジを狙い、そして十一月に一泊して檜原湖ワカサギ釣りを行いました。

海水温の上昇や再度の地震による漁港や防波堤工事で環境が変わり、釣果は良くありませんでした。

しかしながら、コロナ禍で外出を控えている会員は、海を見て、潮風に当たりおにぎりを食べながら、

竿に注視しながらも、健康や近況の報告をしたりして気分転換を図っています。(釣りクラブ 杉浦 伸吉)



仙台港釣り公園にて

お知らせ

福島県公立学校退職校長会

郡山大会

第五十七回福島県公立学校退職校長会郡山大会開催について、次の通りお知らせいたします。

▽主催 福島県公立学校

退職校長会

▽後援

- ・郡山市教育委員会
- ・福島県市町村教育委員会
- ・連絡協議会郡山支会

一期日

・令和五年六月十四日(水)

二会場

・ビューホテルアネックス

4F 花勝見

郡山市中町一〇一〇

電話(〇二四)

九三九一一一二

三 大会日程

・受付 十時〜

・開会式 十時三十分〜

・講演 十一時二十分〜

・演題

「幕末や明治の偉人を

育てた儒学者・安積良斎」

講師 安藤 智重氏

(安積国造神社宮司)

・昼食・懇談(ビデオ放映)

十二時二十分〜

・体験発表 十三時十分〜

福島・南会津・相馬

・大会宣言 十四時三十五分〜

閉会式 十四時四十五分〜

四会費

・千五百円

五 参加人数

・二百五十名程度

※なお、大会実施を前提に準備を進めておりますが、今後の新型コロナウイルスの感染状況や対応等を踏まえ、実施の判断をいたします。